

「RS ワクチンについて」

令和 8 年 4 月 1 日に R S ウイルスワクチンによる母子免疫ワクチンが定期接種になりました。これから生まれてくる子供のために、妊婦さんにワクチンを接種します。妊娠 28 週 0 日から 36 週 6 日の妊婦さんが対象です。妊婦さんにできた抗体が胎盤を経由して胎児に移行します。

生涯において R S ウイルスには複数回感染します。初めての感染では 20-30% の子供が細気管支炎や肺炎を発症します。特に生後 6 ヶ月未満の新生児や乳児が感染すると重症化することが知られています。また、気管支喘息の発症リスクの一つとして R S ウイルス感染があげられています。

日本では、毎年 12-14 万人の 2 才未満の乳幼児が R S ウイルス感染症と診断され、約 4 分の 1（約 3 万人）が入院を必要とすると推定されています。

R S 感染症に対する特別な治療法はありません。呼吸管理、補液管理などの治療が主体となります。母子入院の場合も少なくはありません。

母親がワクチンを接種することによって、新生児の入院や集中治療管理が必要となる RSV 重症例を効果的に減らせると考えられます。

昨年の夏は R S ウイルス感染が大流行し、入院施設が大幅に不足しました。小児科医としてもこのワクチンの効果を大変期待しています。

尚、県外での里帰り分娩を考えている場合は、早めにお住まいの自治体担当課へ相談して下さい。